

ISAFインターナショナル・ジャッジ・マニュアル2013年6月変更箇所

ページ	行	2013年2月版	2013年6月版
2/10	26 - 31	陸上で話し合うときは、2人のジャッジが競技者と可能な場合はそのコーチとペナルティーを話し合うことが、最もよい。ペナルティーを与えたジャッジは、可能であれば、ペナルティーを与えたチームの一員ではないジャッジと一緒にであることを勧める。これが不可能な場合には、そのジャッジ・ボートの2人のジャッジが競技者と話すことを勧める。	陸上で話し合うときは、可能であれば、ペナルティーを与えた2人のジャッジがコーチおよび競技者とのことを話し合うのが最もよい。2人のジャッジのうちの1人が利用できない場合には、別のジャッジが利用できるジャッジと同行することを勧める。
2/12	6	『支援者による違反に対し従う手順』	(削除)
4/9	12	適切な場所	近い場所
5/4	26 -30	プロテスト委員会がこの時までレガッタ開催地をすでに離れていた場合には、この種の違反は、規則69.2 (f) に基づき、MNAにより扱われるであろう。時期にもよるが、同じに多様な問題を大会前に適用する場合、プロテスト委員会が現地で申し立てを扱うことができるし、規則69.2 (f) に基づきMNAによっても扱うことができよう。	プロテスト委員会がレガッタ開催地をすでに離れており、規則 69.1 (a) 違反を申し立てる報告を受け取った場合、レース委員会または主催団体は、この規則に基づいた手続きを進めるために新しいプロテスト委員会を任命することができる。大会前に同様の問題を適用する場合、プロテスト委員会が、現地でその申し立てを扱うことを勧める。
B 5	最終	(追加)	規定31.11.2(a)と(b)は、2014年以降に考慮のために提出された再任命の申請に対し効力があるものとする。
B 6	12	(誤) 候補者	(正) 競技役員
	14	(誤) 候補者	(正) 競技役員
H 1	H.6	コーチおよびチーム・リーダーとのコミュニケーション	コーチおよび支援要員とのコミュニケーション
	H.7	コーチその他のチーム役員の懲戒	コーチその他のチーム役員による違反
H 2	4	競技者、レガッタ・スタッフとジャッジが	競技者、レガッタ・スタッフ、レース・マネージメント・チームとジャッジが
	14 - 16	この最初のレース委員会とプロテスト委員会間の最初のよき経験が、大会全体でレース委員会とプロテスト委員会間の協力がよいこととなることが多い。	この最初のレース委員会とプロテスト委員会間の最初の共同作業の経験が、大会期間中のレース委員会とプロテスト委員会間の尊敬の関係につながる。
	34 - 36	口調は、忍耐強いが断固としたものであるとよい。競技者が回答を論じ始める場合には、論争を避け、質問を書面で出すように求める。	用いる口調は、忍耐強いが断固としたものであるとよい。競技者が回答を論じ始める場合には、論争を避け、質問を書面で提供されるように求める。
H 3	9	その他の重要な競技役員	その他の重要な要員、例えば、安全オフィサー
	11 - 13	また、委員長またはプロテスト委員会の代表者は、計測役員とミーティングして、ぬれた衣類を管理する器具と装備の計量手順を確認することを勧める。	また、委員長またはプロテスト委員会の代表者は、計測要員とミーティングして、用いている場合には、ぬれた衣類を管理する器具と装備の計量手順を確認することを勧める。
	18 - 19	ブリーフィングの主たる目的は、重要な役員達を競技者に紹介することにある。	ブリーフィングの主たる目的は、レース・マネージメント・チームとプロテスト委員会の重要な役員達を競技者に紹介することにある。
	下から3	(挿入)	また、第2章の規則違反またはマークとの接触に関して規則44中のペナルティーを思い出させること。衝突後にペナルティーが履行されない場合、1艇または両艇が抗議することの重要性も強調すること。

ISAFインターナショナル・ジャッジ・マニュアル2013年6月変更箇所

ページ	行	2013年2月版	2013年6月版
H 4	7	競技者	競技者とそのコーチ/親
	31	レース公示および帆走指示書	クラス規則および/またはレース公示と帆走指示書
H 5	16	「レース委員会」の前に挿入	クラス規則またはレース公示および帆走指示書に記載されている場合、
	19	H.6 コーチおよびチーム・リーダーとのコミュニケーション	H.6 コーチおよび支援要員とのコミュニケーション
H 6	19	H.7 コーチその他のチーム役員の懲戒	H.7 コーチその他のチーム役員による違反
J 3	下から 7 - 4	抗議が提出された後、抗議者の抗議の取り下げ要請をプロテスト委員会または、裁定方式を用いている場合裁定人が認めた場合のみ、抗議を取り下げることができる(規則63.1)。このことは、理由を求めて、抗議の取り下げが妥当であると納得した後のみ、認めることを勧める。競技者が、抗議の取り下げの確認を抗議書に署名することも勧める。	抗議が一旦受け取られれば、抗議者の抗議の取り下げ要請をプロテスト委員会の決定として承認しなければならない(規則63.1)。このことは、抗議者が要請の理由を与える短い審問で扱う。プロテスト委員会は、要請が妥当であると納得した場合には、抗議の取り下げを認めるであろう。競技者が、抗議の取り下げの確認を抗議書に署名することも勧める。
J 4	3	損傷または障害	重大な損傷または傷害
J 5	10	確実に利用でき、待っているようにすることを勧める。	利用できて、外で待っていることを確認することを勧める。
	20 - 21	この締切時刻を掲示の日時を入れて、公式掲示板に掲示する。	この判決と再開と救済についての個々のケースの締切時間を掲示の日時を入れて、速やかに公式掲示板に掲示する。
K 8	5 - 6	ただし、帆走指示書(例、オブティミスト級)またはクラス規則に明確に記載されている場合を除く。	ただし、帆走指示書または規則87で許されているクラス規則に明確に記載されている場合を除く。
L 3	23 - 24	「裁定の審問は」の前に挿入	帆走指示書でオブザーバーを許している場合を除き、
M 2	14 - 15	ISAFケース19にいくつかの提案がなされている。	ISAFケース19は、ジャッジが損傷を確認するための質問を可能にする2つの例を挙げている。
	18	・ 乗員メンバーが傷害を受けたか？	(削除)
	19 - 23	ISAF競技規則Q&Aサービスに基づくQ&A 2010-31 J013は、ISAFケース集と違って拘束されないが、次の『損傷』の定義を与えている。	ISAF競技規則Q&Aサービスは、ISAFケース集と違って拘束はされないが、『損傷』の定義を示していた。ただし、このQ&Aは2013年初めからほとんどの
		損傷とは、艇の価値、有用性または正常な機能を損なうような状況になる物的危害をいう。損傷に関する規則61.1 (a) (4) での唯一の制限は、その損傷が関与した艇(1 艇ではない)に明らかでなければならないことである。	Q&Aとともに取り下げられた。損傷の要求される程度は何であるかに到達するときに役立つ差し替えのQ&Aがあるかを確かめるために、読者がISAFウェブサイトのQ&A集を定期的に見ることを推奨する。
N		(全面変更)	別添